

27 日	26 日	25 日	24 日	23 日	22 日	21 日	18 日	15 日	12 日	13 日	9 日	8 日	7 日	5 日
少年会年頭幹部会	本部月次祭 祭典後お礼づとめ	教養掛実技勉強会 青年会委員会												
肥里 樋口 しづか	南阿太 芝田 沙姫	東水町 上田 真理子	東水町 上田 悠真	東志免 吉丸 勝美	東志免 吉丸 正子	天神免 池田 祥平	表田 上田 悠真							

R179 教務報 2月 如月

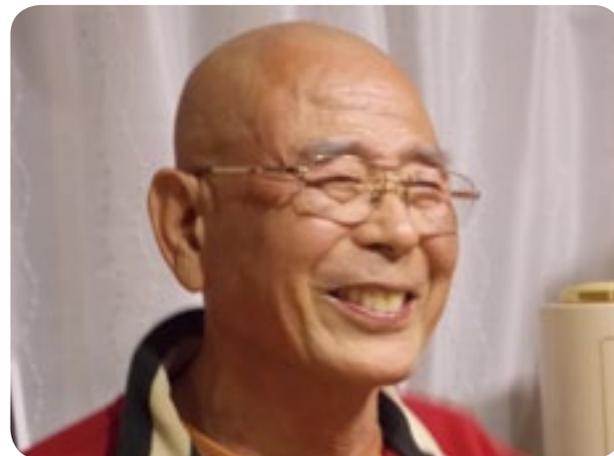
OKA

立教179年(H28) 1月23日発刊

ようぼくの心と心をつなぐ News Letter

私は、信仰3代目。布教所長として熱心だった母の背中を見て育ちましたが、若いころは仕事の忙しさにかまけ、思うように御用をつとめることができ...

今から約3年前のことです。体に血液を送り出すための心臓の大動脈弁に、不具合が生じました。検査の結果、死に至る危険もあり、早急に手術が必要...



ようぼくとしての内面を磨く

山科一彦さん(住之部分教会ようぼく)

さまざまな方との出会いを通して、ようぼくとしての姿にをいかけ・おたすけに向かう積極的な姿勢、道を求める熱い心を学ぶことができたのです。修養生活を送る中で、ふと母親の姿を思い出しました。にをいかけ・おたすけにまっしぐらだった母。困った人を見つけてはすぐに駆け付け、おちばへと導いていた姿が目には焼き付いています。

学生生徒修養会 大学の部

2016.3.3 Thu 9 Web

内容/講義、グループワーク、にをいかけひのきしん、おつとめ勉強など ※期間中に別席を1席運べます。 受講御供/8,000円 受付期間/2月25日まで ※受講願書は各教務支庁にもあります。

【申込・問い合わせ先】 岡学生担当委員会 担当/上田時弘 ☎/090-1152-8187 e-mail/hyotoki-14@ezweb.ne.jp

次代を担う道の学生。その中でも大学生、短大生、大学院生、専門学校生などを対象とした「学生生徒修養会」が開催されます。御教養を学び、自らの信仰を振り返る7日間。道の仲間との出会いは、かけがえのない宝物となります。「学修」に参加してみませんか？

大教会役員 村田 弘子



10年に一度迎えさせていただく、先祖のご年祭。このたびの百三十年祭で私自身、5回目の年祭を迎えさせていただきます。



私は、今年で福門分教会へ嫁がせていただいて、ちょうど50年になります。教会で生まれ育ったわけではなく、嫁いだ当初は先祖の年祭が何なのかさっぱりわかりませんでした。皆さまに支えていただき、育てていただいたおかげで、今日がごさいます。これまでの先祖年祭を振り返ると、年祭の度毎に大きな節を頂いてきました。

先祖九十年祭の時、福門分教会の2代会長がお出直しになりました。そして、10年後の先祖百年祭の旬には、主人の出直しを経験したのです。

主人を亡くした時、ブラジルに嫁いでいた義妹から電話がありました。受話器の向こうから伝えられたのは、「お義姉さん、兄の出直しを聞いて、いま神様にお礼を申し上げました」との言葉。お道のことを、まだよくわからないので、とにかく検査しましょう」と言われました。私自身、思うところがあったので、心定めたところ、ポリープが消えて無くなるというご守護をいただきました。

先祖百二十年祭の時には、孫に身上を頂きました。そして、このたびの先祖百三十年祭、年祭活動期間中のことです。

昨年の9月、福門分教会は創立百周年を迎えました。記念祭をつとめさせていただく少し前のこと。朝づとめの最中に突然めまいが起こり、どうにも気持ち悪さが取れないので、掛かりつけの病院へ向かいました。すると、精密検査が必要なようで「大きな病院で検査してください」と紹介状を手渡されました。CT（コンピュータ断層撮影）検査の結果を見た医師から言われたのは、「村田さん、頭の後ろに黒い影がある」と。続いて、MRI（核磁気共鳴画像法）を行った直後、「即入院です」と言われました。脳梗塞だったのです。

突然のことに驚きましたが、正直、実感がありません。それほど危機感もなく、私は「明日、福岡に行く用事がある。点滴か何かで治りませんか」と尋ねると、「そんなこと言っている、あなた死にますよ」と言われました。その日から3週間、入院することになりました。

入院中、いろいろと考えさせられました。病院の先生の大変さや、看護師さんのご苦労。長期入院している患者さんの気持ちや、支える家族の気苦労など。自分自身がこれまで元気で入院などしたことがなかったのに、本当に勉強になりました。

私の脳梗塞は、小脳という部分で起きていました。小脳には、栄養を与えるための動脈が数本あるそうです。そのうちの、^{髄骨動脈}髄骨動脈の一本が根元から詰まっていたのです。現在も詰まっています。詰まっていますが、「あなた、髄骨動脈が詰まっていますけれど、ほかの動脈から新しく血管が出ていて、その詰まりをたすけている」と医師に教えられました。そして、

かっついていなかったからか、一瞬、耳を疑いました。そして、私は「あなた人が亡くなってもお礼を言うの？他人事と思つて、よくそんなことが言えるのね」との思いを伝えたのです。すると、「実は、兄が出生したとき、死んだ状態で生まれたのです。おさづけの取り次ぎでたすけていただき、それから50年も神様にお使いいただいたのです」との返事が返ってきました。私は、なるほどと思いました。

主人を亡くした時、実家の父から「もう帰ってこい」と言われました。当時、一番下の子供が小学6年生。「子供4人を、女手一つでどうして育てるのか。誰も身寄りもないだろう。帰ってきなさい。みんなでたすけてやるから」と父が言うのです。正直、「帰ろうかな」と考えていました。すると、当教会のある方が「奥さん、頑張りましょう。みんなで頑張りましょう。会長様のお出直しは、私たちみんなが成人させていた

だくための節だと思えます。力にならせていただきますので、どうか帰らないでください」と言ってくれました。また、ある方は「微力ながら親孝行させていただくから、会長としてつとめてほしい」とも。私はその後、会長として25年つとめさせていただきました。

百十年祭を迎える頃は、私の子供たち全員が交通事故を起こすということがありました。また、私自身にも十二指腸にポリープができるという身上を頂いたのです。医師からは、「このポリープは、良性的悪性か」でした。医師の言葉に、「不思議が神。神様の御守護のおかげ」と、つくづく感じました。

私たちは、さまざまな節をお互いに、大なり小なり見せていただいています。その時に、その節に対して「それは無理」と思うと、それは節から出た芽が折れてしまうことにつながるのではないかと思うのです。「どんな中も喜んで通らせていただく」ことの大切さは、お互いに耳にし、知ってはいますが、大変なことが起こった時にこそ、どれだけ喜ばせていただいているかが大切だと思います。

『みかぐらうた』七下り目の八ツに、「やしきハかみのでんちやで、まいたるたねハみなはへる」とあります。「たね」の時は、胸に手をやります。これは、心が一番大切だということを表して下さっていると思います。

真柱様は、昨秋の大祭のお言葉で、「雛形かんろだいは木製であり、しかも雨打たしでありますから、ある程度の年数が経てば傷んできます。色が黒ずんだり、欠けたり、ねじれたりするのは自然の姿と言える」と話され、「その時がきたから据え替えるというだけでなく、かんろだいをめぐる史実と、道の節目の立て合いを思うにつけても、こうしたときは、自らの信仰姿勢を振り返り、汚れや傷は無いかと点検する。さらには、ちばに、親神様・先祖に対する心の向きを見つめなおす機会になると思う」「かんろだいの意味に思いを致し、ちばにまっすぐに心を向け、その理一つである親神様・先祖にご満足いただける心の普請につとめた」との思召をお聞かせくださいました。お互いに、歩みを進める上で反省はございますが、先祖百三十年祭まで残すところ1カ月。最後まで気を抜くことなく、頑張つてつとめさせていたいただきたいと思えます。

新年の風物詩 おぢばの「お節会」

お雑煮で心も体もポカポカ

新年を迎えたおぢばの風物詩「お節会」。今年も全国各地から大勢の方々がお帰りになり、岡大教会関係者も多数、お節会に参加させていただきました。

今回、ご本部へお供えされたお餅は、約22t。ふるまわれたお神酒は一升瓶で188本分。水菜が約4t。お餅を焼く際に使用された木炭は、約6tでした。



たくさんの人でにぎわう「お節会」会場。温かいお雑煮に、思わず何度も「おかわり！」。

お節会は教祖ご在世当時から続いており、お椀にお餅とゆでた水菜を入れ、熱いおつゆをかけてお雑煮をいただくスタイルは、お節会

心を込めて ご本部へお供えの鏡餅 熱気あふれる 若人力 全開

熱気で中の様子が伺えないほど真っ白に曇る厨房の窓ガラス。近づくと、中から元気で勇ましい掛け声が聞こえてくる。

年の瀬も迫る、12月27日。この日は年末恒例の、ご本部へお供えさせていただく鏡餅つきの日。今回ご本部へお届けしたのは、一石五升のもち米で18個の鏡餅。鏡餅一つの大きさは、なんと約6升(約12kg)にもなる。

餅のつき手は、青年会員が主(写真)。特に最近では、関西圏内の教会に青年会員が増え、そのメンバーの弟妹や、教会につながる少年



一方で、もち米を蒸す作業や、お餅のつき具合、鏡餅の形を整える作業は、長年お餅つきに携わってきた「道の大先輩」が担当。コミュニケーションをとりながら、見た目も美しい鏡餅へと仕上げる。

またこの日は、盛華会(40歳までの既婚女性)のメンバーが厨房周辺の大掃除を実施。そのほか、大教会や詰所などで食べられる小餅づくりも行った。

教祖10年祭が執行された明治29年。この年の11月に岡出張所設立の認可を得た岡大教会は、今年「創立百二十周年」を迎えます。

おぢばより南へ約17kmの所に位置する古都、明日香村。明治13年の転輸王講社の開筵に際して、「教会というものを置きさえすれば、教祖に御迷惑もかからず、つとめも仰せ通りできる」(『稿本天理教教祖伝』第7章「ふしから芽が出る」)との思いから、金剛山地福寺へ願ひ出るために中山秀司先生がご苦勞下された道中に、岡大教会は位置しています。

明治20年に講社を結成した岡の道は、明治29年に出張所が設立されました。その後、33年に借家だった講社を現在の場所へ移転し、支教会へ昇格。

神殿普請を経て、35年に神殿新築落成奉告祭。42年に岡分教会に昇格し、昭和15年には敷島大教会から分離し、岡大教会へ昇格しました。

今回の「創立百二十周年記念祭」は、真柱様、はるえ奥様、大亮様をお迎えして、9月24日(土)に執り行われます。「年祭の年ごとに創立の節目を迎える岡大教会。まずは、教祖百三十年祭を精いっぱい勤めきり、その機運を創立記念祭へ向け、一手一つに歩みを進めさせていただきたい」との大教会長の思いのもと、現在、創立百二十周年準備委員会を立ち上げ、記念祭に向けて話し合いが進められています。

教祖年祭を迎えると、創立百二十周年までは約8カ月。一手一つに心を寄せ、「その日」を迎えさせていただきます。と思っています。

一手一つに喜びの節目を迎えたい いざ 大教会創立120周年記念祭へ



記念祭は9月24日(土) 執行

家族みんなそるって おぢば伏せ込み団参へ参加しよう!

▶毎月第1日曜日に実施中◀

次回は 2月7日(日)

3月6日(日)

10時 集合/ひのきしん実動

▶毎月25日の早朝も実施◀

朝づとめ1時間前に、本部回廊

拭きをさせていただきます。

私 成人を求めその先に 進むべき道を与えていただけ

川村美穂さん（写真左、東志免分教会ようぼうく）



うしても英語の勉強がしたい」という気持ちが膨らみ、両親に頼み込んで1年間の休学と、カナダへの留学を許してもらいました。

留学も半年が過ぎた頃、親友の結婚式で一時帰国した際に、父から「大事な話がある。これからの半年はカナダに戻らずに、修養科に行かないか。今の身勝手な振る舞いを見ていると、将来が心配だ」と言われました。確かに、心の中で両親に感謝はしつつも、それを態度に表せず、家族にとって「私は自由気ままに、横着な娘」と思われても仕方のない態度をとってしまっていました。

このままでは駄目だと薄々自覚していた私は、残り半年の留学を諦め、教祖年祭の旬に修養科へ行くことにしたのです。

信者の家庭で育ちましたが、思い起こせば、お正月の元旦には家族揃って所属教会へ初参り。自営で商売をしている両親はどんなに忙し

くても、必ず教会の月次祭には夫婦で仕事を休んで参拝します。そして、毎月のわが家の講社祭をつとめ、夏休みには毎年欠かさず「こどもおぢばがえり」に連れて行ってくださっていました。また、17歳になった私に別席を運ばせてくれ、その時々に応じて、信仰を土台とした道を見つけられていました。なので、修養科の話も不思議と素直に聞く事が出来たのだと思います。

修養科中、世の中の悩みを凝縮した様な事情や身上を抱えた方々のお話を聞かせていただき、どれだけ自分が恵まれているのか身に染みて分かりました。修養生活を通して、心を低くしてひのきしんに励む中、「昔の私はもっと笑顔で人にも優しくしていたなあ――」と、自身を振り返ることが出来ました。

また、親の勧めで行くことを決めた修養科でしたが、3カ月の修養生活を共にした仲間とは、何でも話せる良い人間関係を築くことができ、修了が近づくにつれて「まだ帰りたくない」「ここで出会った仲間と離れたくない」と強く思うようになっていました。今では、このタイミングで修養科を勧めてくれた親に心から感謝しています。

別席を聞いただけでは覚える事が難しかった教理も、授業でゆっくり教えていただき、教えるの素晴らしさを十分に理解しました。「おさづけ」も地元に戻ってから、入院中の祖母に取り

次がせて頂いています。また、両親にも素直に感謝の持ちを態度で表せるようになったと思います。

修養科を終えた私は、この春から大学へ戻ることにしていました。しかし、英語の勉強への未練もあり、今後のことを思案していたある日、教会の親奥様が母に「美穂ちゃんが色々迷っているんだったら、ちょうど1月26日は教祖百三十年祭という10年に一度の大きな旬だから、講習に行かせてもらったらどうか」とお声をかけて下さったのです。

私は、喜んで講習に行かせていただく心を定めました。すると、両親も喜んでくれ「講習から戻ったら、もう一年大学を休学して海外で英語の勉強をしてきなさい」と、私からは申し訳なくて言えなかったことを、両親が提案してくれました。親の声を素直に聞けば、自分に返って来ることを実感しました。そして、成人を求めるその先に、進むべき道を親神様・教祖からお与えただけののかなとも思いました。

これからの私の信仰は、先ずはようぼうくとして教会の月次祭に足を運ぶことから始めたいと思います。また、悩んでいる人が身近にいたら、修養科という素晴らしいところがあることを伝えたいです。そして将来は、親が私に教えてくれたように、自分の子供にも信仰を繋いでいけたらと思っています。



活動や取り組みを世界へ発信

現在、大教会では「会報」や「ホームページ」、「フェイスブック」を利用して活動や取り組みを紹介しています。国内はもとより、遠く海外の方にも閲覧いただき、コメントも寄せられています。より充実した発信を目指すために、皆さんからの情報、提案が必要です。どうか、ご理解とご協力をいただき、情報提供をお願いいたします。

【岡大教会】 〒634-0111 奈良県高市郡明日香村岡 395
TEL / 0744-54-2002 FAX / 0744-54-3889 E-mail / info@oka.or.jp

婦人会「伏せ込みひのきしん」

R178年12月22~23日

年の瀬のあわただしい中、皆さん勇んで頑張ってくださいました。笑いの絶えない陽気なみなさんでした。ありがとうございました。



担当係 / 清水ゆう子（筑八）

参加者 / 上田 敏江（表田）、出口 美樹（飛鳥川）、角 てる子（北佐賀）

寺尾 菊代（東明実）、牧 史（呉服町）、佐渡島美恵子（鶴城） 順不同

少年会岡団 結成三十周年

記念行事「徒歩団参」を計画

教祖百年祭がおちばで勤められた立教149年、産声を上げた少年会岡団。以来30年、「少年会総会」や「こどもおちばがえり」、「鼓笛活動」、「教会おとまり会」、「ウィンターキャンプ」などを通して、少年会員の育成に取り組んできた。



「教祖を身近に」をテーマに、教祖のひながたを「紙芝居」で伝える。練成会の一コマ。

おつとめ衣に袖を通し、大教会の神殿でつとめるおつとめは、特別なものとなっている。また、その年毎に趣向を凝らしたプログラムが組み込まれ、仕込み行事で信仰の喜びを伝え、お楽しみ行事を通して子供たちの交流を深めてきた。

教祖百三十年祭の年祭活動の3年間は、「教祖を身近に」とのテーマを掲げ、縦の伝道活動を進めてきた岡団（蓮池弘之団長）。結成30周年を迎える今年には、「教祖の『ひながた』を身近に感じてもらうように取り組んできたこれまでを踏まえ、話を聞くだけでなく、身に行うことが子供たちの心に残る。そこで、先んずく先生方が歩まれたおちばまでの道程を子供たちにも実際に歩いてもらいたい」との思いから、「30周年記念 徒歩団参」と銘打ち、おちばまでの徒歩団参を計画している。



記念行事の「徒歩団参」を計画する上で、実際に少年会員と下見に歩き、プランを考える。

中でも「総会」は、少年会行事の一大イベント。手作りの

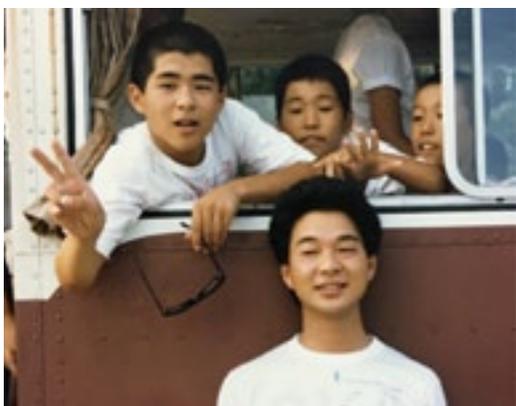
今年「少年会総会」当日は3月31日（木）前日の30日（水）に大教会に集合し、練成会を実施。おつとめ練習なども行う。総会翌日の4月1日は、記念の「徒歩団参」を予定。現在、岡団の委員や各教会の隊育成会長、隊育成委員長が意見を寄せ合い、3日間のプログラムを話し合っている。

岡団として、少年会育成の歩みを進めて今年で30年。当初、会員だったメンバーは、いまや岡大教会や関係教会にとつてなくてはならない存在となっている。次代を担う若年層の育成は、お道の活動にとつて欠かせないもの。30年の節目を、一人でも多くの少年会員で盛り上げたい。



少年会岡団結成当初の写真。当初の「少年会総会」（＝写真右上）は、おつとめ前の

祭儀式も少年会員がつとめていました。左上と左下の写真は、練成会での一コマ。皆さん、見覚えのある顔はありますか？少年会員の集合写真に掲げられている「ぼくらの手で」は、とても力強い言葉です。吉田つる奥様の写っている写真は、練成会でのアトラクション風景。右下の写真には、見覚えのある先生方の若かりし頃の姿が。



1万人の仲間とともにおちばへ帰ろう！

教祖130年祭 学生おちばがえり大会

立教179年3月28日(月) 10:00~

岡学生会は「参加者100人」を心定め

岡大教会に繋がる学生のみなさん、10年に一度の大会がついにやってきます！
大会当日は1万人の仲間がおちばに集い感動と喜びを分かち合います。関西、九州、全国に
いる岡学生会のみんなと一緒に輝ける機会はこの『大会』しかありません。
この旬に、一人でも多くの仲間ときっと一つになれる「おちば」に帰らせて頂きましょう！

対象は高校生(新1年生を含む)、大学生、短期大学生、専門学校生、大学院生など。
おちばでお待ちくださる教祖に、一緒にご挨拶に帰りましょう(^^)



【募集要項】

【岡学生会プログラム】

期 間／3月27日～28日(1泊2日)
27日10:00 岡詰所集合
28日18:00 岡詰所解散

参加御供／3000円

※送迎便利用者は、片道の場合5,000円、往復の場合はプラス10,000円

携行品／自教会ハッピー、筆記具、防寒具、洗面具、風呂道具、着替え、保険証(コピー可)など

【九州からの送迎便について】

■福岡地区

26日18:00 西北分教会集合

29日未明 到着解散

■佐賀地区

26日16:00 東松浦分教会集合

29日未明 到着解散

※それ以外の遠方の方は相談の上、送迎便を出させて頂くこともあります。

3月27日(日)
10:00 詰所集合・受付
ウォーミングアップ・開会式
午 後 昼食、グループタイム
お楽しみ交流行事
夜 本部夕づとめ参拝
前夜祭「Next Step 130」参加
3月28日(月)
10:00 式典「真柱様お言葉」
学生感話
午 後 教区参加者も合流
直属アワー(内容はひ♡み♡つ♡)
グループタイム・解散

★申込・問い合わせ先★

岡学生会担当委員会 担当/上田時弘

☎/090-1152-8187 e-mail /hyotoki-14@ezweb.ne.jp



九州での参加呼びかけに同行した長谷美幸さん(=写真右、大博分教会)は、福岡教区学生会の委員長経験者。学生会活動を共に盛り上げてくれている。

「学生おちばがえり大会」には

岡から100人の学生をもちびく！

「おちばがえり大会」は3月28日

そんな中、岡学生会担当委員会(出口浩和委員長)では、この「大会」に向けて、岡につながる学生の動員目標を100人と掲げた。岡につながる学生の、例年の参加者は約50人。2倍の参加者を目指す。

諸活動の充実や参加者の増加に向けた取り組みは、大教会内の各部各会での「苦心の種」。さまざまな理由から、教会から足が遠のいていくのか、それとも声掛けが思うように出来ていないか。それは学生会活動も同じで、ここ近年の参加者数は減少傾向にある。

そんな中、大教会では「学生層の育成を担う『岡学生会担当委員会』の後押しをしよう」と、「学修サポーター」を昨夏に結成。「学生生徒修養会(高校の部)」の参加者増加を目指して取り組みを進めてきた。結果、参加者が前年よりも約15倍増えた。また、この「サポーター」の活動を受けて、各教会長が学生の動員へ積極的に協力。動員数の増加に向けて、各会と教会の合力の重要性が見え、次代を担う若年層育成への

連携の必要性が明らかとなった。今回の「大会」に向けて、引き続き「サポーター」が動員に向けて活動中。1月には、九州各地の教会や布教所、学生の自宅を訪問。「大会」への参加呼びかけはもちろん、「学生生徒修養会(大学の部)」や「ウィンターキャンプ」への呼びかけも行っている。また、今回は、「春学」や「学修」に参加経験のある現役学生などが「サポーター」に参加。教会の協力を得ながら対象者の自宅などへ足を運び、仲間に声をかけ、「大会」への「動員100人」を目指す。

内容充実への熱が 学生の心を動かす

「サポーター」を結成した昨夏以降、さまざまな所で、その効果が現れてきている。夏の「学修(高校の部)」の参加者増加はもちろんだが、その後の学生会行事への参加者が増えているのだ。南阿太分教会(芝田真一会長)では、昨夏の「学修」に4人が参加。その一人、柏原勇介くんは今年の「おせち学生ひのきしん隊」にも参加した。芝田会長夫妻は、「学修」以降、自ら学生会行事に参加したいと話してくれるようになった。信仰熱心な親の姿を見て育ったのはもちろんだけど、こうした活動がさらなる支えになっているに違いない」と話す。